

今月の法話

一、「彼岸と六波羅蜜」二、「仏教と花」

一、彼岸と六波羅蜜

今年はまだに諸行無常を体感する年となりました。私達が生きるゆえに必ずある、四苦八苦。その中で生の苦しみは誰もが味わうものです。仏教における修行とは、仏の智慧を学び実践することです。一方で人生、経験、学問なども修行であるとされます。人生の悩みは皆それぞれにあり、迷う中で自分自身の存在、夢、志、安定や満足など、一切の不安がなく気持ち良く生きられることを望みます。そこに到達点には、全ての苦しみから逃れた悟りの世界があります。それが「彼岸」なのです。悟る前は此岸しがんと言います。彼岸の世界は私達の世界の苦しみをなくした世界なのです。皆さんの悩みのほとんどは人との繋がり（人間関係）です。次に老いること、病気や健康問題、金銭です。人は産まれ死するまで人と関わり続けます。一人では生まれることも生きることでも死することもできません。自殺でさえ自分一人の問題ではありせん。それまで関わってきた人達や家族、友人、など多くの人が哀しみます。その場限りの自身の考えで回りが見えなくなり迷い苦しみ人生を放棄する人もいますし、これをこの事が悪いのではなく、また、地獄の苦しみを感じて生きることもより死することを考えてしまう人もいます。

私達は必ず人との繋がりを持って生きています。仏の教えはこの苦しい人生を穏やかに暮らせる方法を教えてくれます。それが彼岸の修行（六波羅蜜）です。六つの修行が悟りへの道を開くのです。布施、持戒、忍辱にんじゆ、精進、禪定、智慧です。布施は見返りを求めない施し、持戒は社会的な決まりを守り道徳心を持つ、忍辱は堪え忍ぶことや、思いやり、慈悲の心、精進は日々に誠心誠意の努力、禪定は落ち着いた正しい判断、平常心、座禅などの実践。智慧は般若とも言い、仏の智慧を示し佛法をよく学ぶこと。これらはこの世の複雑な時代をよりシンプルに考えて少しでも彼岸に近づき方法なのです。

彼岸会ですが、年に二回、春分、秋分の中日を前後して七日間に行われる日本独自性の供養法です。ゆえにご先祖様への感謝と自身への功德が同時に行える供養法なのです。古来より春は田植え、秋は収穫の時期で神々にご先祖様に感謝して皆の心を引き締めて人々の繋がりを大切にしてきた行事であることを知って下さいませ。

そして、六波羅蜜を毎日実践することこそが彼岸会をより深く修行することになります。一日目から順に布施、持戒、忍辱。中日を供養日として、精進、禪定、智慧と実践することを心がけるのです。ゆえに人間関係に悩む私達にとって彼岸会は功德法であり修行法なのです。自分自身の供養と祈って祈られると良いと思います。彼岸会は自分自身の供養もできる功德法なのです。今までも多くの方がその御利益を受けられ、良いご縁をいただけております。心してお祈りくださいませ。

二、仏教と花

仏様を荘厳するのに花は欠かせません。御本尊を荘厳する場合は「三具足」ないし「五具足」の形が一般的です。三具足の場合は中心に本尊、左側に花、右側に灯明を。五具足であれば、灯明一对、その外側に花を一对の形になります。お寺に行けば必ずといってよいほどお花が荘厳されていますし、お庭にも様々な植物が植えられ、参拝者の心を癒やしてくれます。

今年東大寺から分けていただいた糊こぼしも露地植えして見事に花をつけてくれました。今も二月堂で行われている修二会では内陣にこの糊こぼしを模した造花にて観音様を荘厳しております。また、薬師寺の修二会は花会式と呼ばれるほど多くの造花で薬師如来様を荘厳することで有名です。

そこで、今回は仏教にまつわる花々を紹介したいと思います。お釈迦様の物語において「花」は様々な場面で登場します。来月にはお釈迦様の誕生を祝う仏生会がありますが、様々な花でお祝いすることから花まつりの別称で親しまれていますね。お釈迦様は北インドにあるルンビニの花園でお生まれになったとされます。

お母様の摩耶夫人が無憂樹むゆうじゆの花を手にとろうとしたところ右の脇からお釈迦様が生まれたのです。この無憂樹は英名でアソッカといいソッカ（憂い）の否定を表すもので、大変にめでたいとされる花です。さらにお釈迦様はこの花を送ってきたヤシヨーダラと婚姻したことからも、縁結びの花でもあります。また、仏教の守護者として歴史に名を残したアシヨーカ王もこの花から名付けられました。

また、お釈迦様の誕生の折には天より花が降り、八大龍王が産湯に甘露を注いだとされます。天より降る花は四華と呼ばれ、曼荼羅華、摩訶曼荼羅華、曼珠沙華、摩訶曼珠沙華になります。曼珠沙華は赤い花で彼岸花な別名として知られますね。曼荼羅華は白い花でチヨウセンアサガオを指します。どちらも毒性があり、魔よけの効果を持ちます。また、仏生会では竜王の甘露の雨を、アマチャを煮出した甘茶で表し、お釈迦様の誕生佛にかけてあげるのです。ちなみにアマチャはアジサイ科の植物で見た目はグクアジサイにそっくりな花なのです。ただし、アマチャが用いられるようになったのは江戸時代以降で、それまでは様々な香料を混ぜた香湯や五香水、五色水を用いました。

次に沙羅の木を紹介します。お釈迦様はクシナガラにて沙羅の花が咲く花園にてお休みになられ、二本の沙羅の木（沙羅双樹）の下で横たわり入滅されたのです。しかし、この沙羅の木は決して不吉な花などではなく当時のインドでは非常に重宝された木で至るところに沙羅林があり、僧侶たちはそこで留まり生活していたそうです。「沙羅林をよく撫育すれば美林となるように、戒を守れば良い仏果を得るであろう」と仏典にもあります。また、日本ではナツツバキが沙羅双樹とされることもあり、これは一日で花が落ちることから世の無常を表すためと言います。

皆様にも馴染み深いのは蓮の花ですね。蓮は汚泥から生まれるも、泥に染まることは無い。その特徴から清浄な仏の悟りを表します。観音様がお持ちの蓮華は多くが未開敷蓮華と言い、まだ花開いていない蓮華です。これはまだ悟っていない菩薩の位にあることを示します。一方で不空羅索観音は開敷蓮華を持ち、悟りの世界をすでに手にしていることを表しています。また、原因と結果が同時にあるという意味の「因果俱時」を表しています。因果俱時とは、現在の中に過去と未来が同時に存在することで、これは蓮の雌しべが実のような形をしているおり、花と実が同時に出現するように見えることが由来です。

菊の花は仏花として広く知られています。こちらも中国において蘭、竹、梅と並び大変めでたく縁起の良い花であることから邪気を払う意味合いで用いられます。重陽の節句である九月九日は菊の節句ともいいますが、これらあまりに陽の氣が強いためかえて不吉を呼びかねないことから邪気祓いとして用いられたのです。実はめでたく、みなさんも見たこと無いけど形は知っている花として「葱の花」も紹介しましょう。ネギはご存知の通り匂いが強いことから精進料理において忌避される野菜ですが、その匂いの強さが氣の強さを表すとして随所に重用されました。その花の形から「葱帽子」と呼ばれ、これが転じて「擬宝珠」になつたと言われます。

このように仏教と花の御縁は枚挙にいとまがなく、そのお寺ごとに象徴的な花もありますね。しかし、どの花が最上であるということではできないでしょう。それこそ、見たことない優曇華のようなものです。どの花も等しく美しく、すべてが光り輝いている。それこそが華嚴の雑華嚴浄と呼ばれる世界観なのです。この世は実は光り輝いている。ただ、私達がそれをみることができないだけです。皆様の心こそが様々な花であり、光であり、観音様の莊嚴となるのです。心して合掌くださいませ。合掌

南無日月光妙法蓮華經

*三月のラッキーカーラー、暗剣殺、五黄殺（三月六日〜四月四日）一年通してのラッキーカーラーは白です。
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

三月のラッキーカーラー 緑 黄 暗剣殺 東南 五黄殺 北西

【お知らせ】

※鎌倉の勉強会の開始時間が五月より正午となります。（横須賀、小田原支部は変更ありません）

① 四月の勉強会の日程 普賢光明寺・四月二日（火）六日（土）七日（日）午時一時より。

横須賀支部・四月二十一日（日）産業交流プラザ 小田原別院・四月二十八日（日）いずれも午後二時より

② 仏生会・四月八日（月）午前十一時より厳修いたします。釈迦誕生の祝いは縁起の根本であり、生命力が授かります。是非ご出席ください。

③ 仏像彫刻教室・四月十四日（日）正午より

④ 令和六年度の年会費と会員証の更新は四月となります。よろしくお願ひいたします。（受付は三月より）

⑤ 智慧と魔除けの靈力を秘めた桃の木から作り祈禱する「ぼけ封じ守り」をご用意しております。郵送も可能ですのでご希望の方はご一報ください。御守りは期間限定で数にも限りがございます。（一体五百円）

⑥ 六月の勉強会より、終了後の午後二時半より三時間ほどの絵画教室を開催いたします。

⑦ 詳細は別紙にてお知らせいたしますが、五月の勉強会の後に説明会を行う予定です。希望者八名以上で開催となりますので、参加ご希望の方はお寺までお問い合わせくださいませ。

⑧ 滝行 三月十七日（塩川滝）二十四日（夕日の滝）三月は男性、経験者のみの行となります。（同意書を事前にご提出ください。）